

- 記念イベント -

帰って来た橋本治展

2024年3月30日(土) — 6月2日(日)

講演と対談「冗談と真情と」

4月20日(土) 14:00～(開場 13:30)

講師：松家仁之(作家、本展編集委員) / 対談出演：柴岡美恵子(橋本治妹)

料金：一般 1,200円(友の会会員 1,000円) 各税込み

講演会「橋本治という時代」

5月3日(金・祝) 14:00～(開場 13:30)

講師：橋爪大三郎(社会学者)

料金：一般 1,000円(友の会会員 800円) 各税込み

記録映像上映会

「豪華本『マルメロ草紙』は
こうして生まれた

—知られざる8年間の闘い—

5月25日(土) 13:30～(開場 13:00)

2024年 テレビマンユニオン カラー 80分

企画：刈部謙一 / 撮影・構成・編集：浦谷年良

映像出演：橋本治、岡田嘉夫ほか

アフタートーク出演：浦谷年良、松家仁之

料金：一般 1,200円(友の会会員 1,000円) 各税込み

会場＝神奈川近代文学館 展示館2階ホール(定員 220名・全席自由)

*未就学児の入場はご遠慮ください。

主催＝県立神奈川近代文学館、(公財)神奈川文学振興会

★イベントのお申込み方法は裏面をご覧ください。

開館時間 9時30分～17時(入館は16時30分まで)

休館日 11月曜日(4月29日)、5月6日は開館)

橋本治(1948～2019)

すでにイラストレーターとして活躍していた中、1977年に高校生の日常を描いた「桃尻娘」で小説家としてデビューし、それまでにないスタイルと内容で世間に衝撃を与える。以後、小説執筆と併行して、恋愛や性、家族、時代を論じ、舞台やイベントを演出し、セーターの編み方を教え、古典をひもとくなど、八面六臂の活躍を繰り広げた。



写真提供・新潮社

講師プロフィール

松家仁之 まついえ・まさし

1958年生まれ。1982年新潮社に入社、1998年「新潮クレスト・ブックス」を企画、創刊。2002年季刊誌「考える人」を創刊、編集長に。2006年から「芸術新潮」編集長を兼任。2010年に新潮社を退社するまで編集者として橋本治に接する。2012年刊行のデビュー小説『火山のふもとで』で読売文学賞を受賞。2018年『光の犬』で芸術選奨文部科学大臣賞、河合隼雄物語賞受賞。その他の著書に『沈むフランス』『優雅なかどうか、わからない』『泡』など。



橋爪大三郎 はしづめ・だいさぶろう

1948年生まれ。大学院大学至善館教授。東京工業大学名誉教授。1967年に東大文科三類に入学。東大闘争に参加（全共闘）。大学院社会学研究科博士課程単位取得退学。在学中に橋本治、芥正彦、加藤典洋、小阪修平らを知る。著書に『はじめての構造主義』『丸山眞男の憂鬱』『小林秀雄の悲哀』『権力』『だめだし日本語論』（橋本治との共著）など。



豪華本『マルメロ草紙』はこうして生まれた—知られざる8年間の闘い—



橋本治（右）と岡田嘉夫（左）

2024年 テレビマンユニオン カラー 80分
企画：刈部謙一 / 撮影・構成・編集：浦谷年良
映像出演：橋本治、岡田嘉夫ほか

橋本治文、岡田嘉夫絵による150部限定の特装本『マルメロ草紙』。作者2人の尽きせぬこだわりにより、2006年の着手から刊行まで8年を費やした同書の制作過程を追ったドキュメンタリー映像。「眼と手と口の人」（松家仁之氏評）である橋本治の在りし日の姿をとらえた貴重な記録である。

★上映後、アフタートークを行います。

出演：浦谷年良（テレビマンユニオン エグゼクティブプロデューサー）、松家仁之

『マルメロ草紙』

時は二十世紀初頭の巴里。ブローニュの森近くの瀟洒な屋敷で暮らす、大実業家エミール・ボナストリュエとその慎ましやかな夫人シャルロット。貞淑な姉シャルロットとは対照的な生き方を求め、華やかなパリで女優を目指す妹のナディヌ。アールデコ様式全盛の時代、煌めきに満ちた女性たちの甘酸っぱく、香気に満ちた物語。

（集英社ホームページから）



『マルメロ草紙』特装版 2013年12月 集英社
装幀：中島かほる 編集協力：刈部謙一

お申し込み方法 *満席などの情報はホームページなどでご確認ください。

お電話（045-622-6666）またはHPの申込フォーム（右記QRコード）で、お名前・会員番号・希望日・参加人数をお知らせください。
料金は当日のお支払い、先着順で定員になり次第受付を終了します。
お申し込みをいただいた方には、当日9:30から展示館1階ミュージアムショップで入場整理番号付きチケットを販売します。



イベント申込用QRコード↑

特別展 帰って来た橋本治展

2024年3月30日（土）—6月2日（日）

開館時間＝9時30分～17時（入館は16時30分まで）
休館日＝月曜日（4月29日、5月6日は開館）

*会期中の毎週金曜日（5月3日を除く）14:00～展示担当者によるスライドトークを行います。
無料（要展示観覧料）・申込不要

横浜・山手 港の見える丘公園内 Kanagawa Museum of Modern Literature 〒231-0862
横浜市中央区山手町110
TEL045-622-6666
<https://www.kanabun.or.jp>

ACCESS

※駐車場がありませんので、公共交通機関等をご利用ください。

〈東急東横線直通・みなとみらい線〉

元町・中華街駅下車 6番出口（アメリカ山公園口）から徒歩10分

〈バス〉いずれも「港の見える丘公園前」下車、徒歩3分

・神奈川中央交通バス⑩系：桜木町駅～保土ヶ谷駅

・横浜市営バス②⑩系：桜木町駅～山手駅

・観光スポット周遊バス「あかいくつ」

〈JR根岸線〉

石川町駅下車 元町（南口）から徒歩20分

